柏崎税務署管内税務協力関係団体協議会長賞

『当たり前じゃないこと』

新潟県立柏崎翔洋中等教育学校　三年　元井　新菜

二〇二二年十二月十九日、新潟県柏崎市の国道八号で記録的な大雪により、最大約二十二キロ、約八百台の車が立ち往生する大規模な交通渋滞が発生しました。そのニュースを見て、当時の私は、この渋滞をどうやって解消するんだろうと疑問に思いました。自然に雪が溶けるには、時間がかかるし、大規模な渋滞だったため、多くの人が困っているだろうと考え、テレビを見ていたら、除雪作業をしている多くの人を見ました。そのことから、この人達はどこからお金をもらっているのだろうという疑問を持ち、私は、インターネットで除雪作業について調べてみました。その結果、税金と除雪は深く関わっていることがわかりました。この立ち往生のときのように、公共の場の除雪の場合は、「自治体の税金」が使われていると知りました。道路（市道、国道）の除雪の財源は、住人が納めた住民税や地方税などの自治体予算、国からの補助です。

そういえば、小学校の登校時、朝早く家を出発して、歩いていたところ、昨日まで積もっていた雪の壁が、一夜にしてなくなっていました。このことも今考えると、早朝あるいは夜中、除雪してくれていた人がいたんだなと感じました。その除雪機の燃料代や人件費は、税金から賄われていると考えました。

私が調べたことは、除雪に関わることのほんの一部にしか過ぎません。現場で除雪機を操作する仕事、その除雪機を指示する仕事、除雪機を整備する仕事、集めた雪を専用の雪捨て場まで運搬する仕事、住宅街や敷地内の雪かき、重機周辺での安全誘導を行う仕事など、まだまだ除雪に関する仕事はたくさんあります。その仕事をこなすには、資金や人の手が必要です。そのために、税金も使われています。大雪・豪雪で自治体の予算を超える除雪費がかかった場合、国から総務省などの仕組みを通じて「特別交付税」という制度もあります。このように、自然災害に対し、国も関わっていると知りました。

豪雪地帯が多い日本では、このような除雪設備が本当に重要だなと思いました。除雪だけではなく、最近頻発している自然災害の復興にも当然税金が使われます。

今まで、やってあって当たり前だと思っていたものが、学んでいくうちに、当たり前じゃないことに気づきました。あらゆるところに、税金が使われていると知り、本当に必要なところに使われるよう、きちんと納めることも大切だと思いました。